



「さがみはらSDGsアワード 2023」の受賞団体決定について

市内の企業、団体によるSDGsに関する優れた取組を表彰する「さがみはらSDGsアワード 2023」の受賞団体が決定しましたのでお知らせします。

1 受賞団体

- ・相模原市長賞：株式会社さがみこファーム
「ソーラーシェアリング型ブルーベリー体験農園による地域創生の取り組み」
- ・優秀賞：一般社団法人さがみ湖 森・モノづくり研究所
「木を使うこと、森を守ること」
- ・協働賞：橋本商店街協同組合
「地域で育てる繋がりと安心して暮らせる街の創造」
- ・審査委員特別賞：市立橋本小学校
「橋本るんるんるん大作戦
～HERO のかけらを回収して、再製品化プロジェクト～」
：HIYAKUKICHI
「学生の飛躍×地域の交流拠点 HIYAKUKICHI by Saltista 橋本 FC」

※受賞団体の詳細は、別紙またはHPをご覧ください。

<https://sdgs.city.sagamihara.kanagawa.jp/award-prize3/>

2 その他

- ・募集期間 令和5年6月15日（木）～9月8日（金）
- ・応募総数 32団体
- ・授賞式 令和5年10月21日（土）
- ・開催者 主催：さがみはらSDGsアワード実行委員会（実行委員長：野村 勇次）
共催：公益社団法人相模原青年会議所、公益社団法人津久井青年会議所、相模原市



問い合わせ先
みんなのSDGs推進課
電話 042-769-9224

【さがみはらSDGs アワード2023相模原市長賞】

(株)さがみこファーム 「ソーラーシェアリング型ブルーベリー体験農園による地域創生の取り組み」

取組概要

- 耕作放棄地を開拓し、本市初となるソーラーシェアリングによる会員制ブルーベリー体験農園「さがみこベリーガーデン」をオープン。エネルギーと農業に観光や教育を掛け合わせ、農地に様々な人を呼び込み、地域活性化並びに地域課題解決に寄与する取り組みを実施。

ポイント

- 地域の自治会と災害時の電気の無償供給に関する協定を締結、地域防災に寄与。
- 農地を年々拡大し、現在は1.4haの耕作放棄地が管理された農地に再生。
- 2023年から地域の女性たちに呼びかけて収穫・選別・出荷するチーム(8名)を組織化し、地域雇用を促進
- 農福連携の取組として、就労B型事業所へ農園の掃除や加工品の製造などを委託。
- 地域の小中学校の体験学習の受入れを実施

今後の展望

- 地域共生型・自然共生型ソーラーシェアリングを周辺農地に拡大。
- 鳥獣被害への対策として、猟師との連携した捕獲を実施

協働

- 福祉事業所:農福連携の推進
- 生活クラブ神奈川生活協同組合:新規発電所建設プロジェクトの共同実施
- (株)フレックス:小売を通じ、電気の地産地消を推進、共同イベントの実施、全社員向けの研修の受入
- 猟師の革屋とこはむ:共同イベントの実施、有害鳥獣駆除



審査委員長コメント

食とエネルギーを同時に生み出すソーラーシェアリングという手法で、耕作放棄地の再生やエネルギー自給率の向上につながっているとともに、地域との災害協定の締結、地域における雇用の創出、農福連携、職場体験の受入れなど、農業、エネルギーに加え、防災、雇用、福祉、教育など幅広い分野における取組は特筆すべきところがあります。今後、ビジネスとしてしっかりと軌道に乗せることで、更なる事業の発展を期待します。

【さがみはらSDGs アワード2023優秀賞】

(一社) さがみ湖 森・モノづくり研究所 「木を使うこと、森を守ること」

取組概要

- 水源地の環境保全や、子ども達へ間伐や木材の地産地消の重要性を伝えることを目的に、**小学校の机の天板を津久井産材の無垢材に交換する事業を展開**するとともに、天板制作時に出た端材での小物制作、津久井産材を使った空間の木質化にも取り組んでいる。

ポイント

- これまで**44校、約5,500枚**の市内小学校の学習机天板の無垢板材への交換を実施。
- 単に交換のみを行うのではなく、森の持つ効用や水資源、生物多様性、地球温暖化などについても**児童にわかりやすく学ぶ環境学習を展開**
- 様々なイベントでワークショップを行うなど、**津久井産材のPRとSDGsの理念の浸透に積極的**に取り組んでいる。

今後の展望

- 学校や企業との連携が多いが、**今後は家庭内で使用する家具やオフィス内で使用する什器にも積極的**に取り組む。

協働

- 福祉事業所:商品の包装など仕上げの業務委託連携
- 隈研吾建築都市設計事務所:渋谷区立鍋島松濤公園内 公共トイレ内装工事
- ウェインストヨタ神奈川 アリオ橋本店:店内の什器・家具の製作
- 橋本小学校:解体する木製アスレチックの古材を使ってボードコールを制作



審査委員長コメント

水源地である相模原市の森林の課題をしっかりと捉え、間伐材の有効活用と子どもたちへの環境学習に資する「森の机事業」を長きに渡り継続していることは、大きな評価に値します。現在取組みを進めている家具・オフィス什器等の制作や空間の木質化を発展させることで、間伐材の消費拡大とさがみはら津久井産材のブランディングにつなげていただくことを期待します。

【さがみはらSDGs アワード2023協働賞】

橋本商店街協同組合 「地域で育てる繋がりと安心して暮らせる街の創造」

取組概要

- 「**社会的弱者にやさしい街**」を目指し、引きこもり経験のある若者や、対人コミュニケーションに課題のある若者を支援する「さがみはら若者サポートステーション」と連携し、**商店街で職業トレーニング**を行うとともに、**視覚障害者向けの音声アプリ実証実験への協力や障害者アートの普及**などにも取り組んでいる。

ポイント

- 職トレ修了者約30名のうち6名が会員店舗に就職し、**人手不足の解決の一助**となるとともに、地域のイベントを積極的に手伝うなど、**地域の力**となっている。
- 各店舗の就業対象者が拡大するとともに、視覚障害者や地域作業所との連携が生まれたことによって、**新規顧客獲得にも繋がった**。

今後の展望

- 会員による認知症サポーターの取得など、**商店街が街のリーダーとして他にも社会的弱者に優しい街を創造する活動**を推進していくとともに、商店街の存在意義も示していく。

協働

- **NPO法人さがみはら若者サポートステーション**: 職業体験の支援
- 一般社団法人音声なびネット: 音声アプリの実証実験
- JT、福祉事業所: アートプロジェクトの実施



審査委員長コメント

商店街という地域の共同体が、「社会的弱者にやさしい街」の実現を掲げ、商店街内における連携のみならず、企業や団体とも連携し、「職業トレーニング」をはじめとして様々な取組を進めていることは、協働賞に相応しいものと考えます。これまでの取組みの継続に加え、「誰一人取り残さない」社会の実現に向けた新たな展開を期待します。

【さがみはらSDGsアワード2023審査委員特別賞】

橋本小学校 「橋本るんるんるん大作戦～HEROのかけらを回収して、再製品化プロジェクト～」

取組概要

- カードゲームで循環型社会の重要性を学ぶとともに、地域企業・大手メーカーからリサイクルの仕組等を学び、家庭から出るプラごみを「HEROのかけら」と称し全校で回収、地域企業等の協力でペレット化し、再商品化するプロジェクトを進めている。

ポイント

- 「SDGsの町HASHIMOTO」という自覚を児童一人ひとりがもてるように、循環型社会の実践を通じた教育を展開し、持続可能な社会の担い手を育成している。
- 昨年度は老朽化した校内の木製アスレチックを廃棄処分せずに、児童のアイデアで木製の小物を作成、地域のショッピングモールでガチャガチャで販売をする取組を実施した。
- 家庭や地域を巻き込む取組となっている。

今後の展望

- 6年生が主体となって実施した事業であるが、他学年をより積極的に巻き込むために、コミュニケーション能力の向上を図る。
- 2030年に向けて、今後も児童が主体的に学ぶ取組を継続する。

協働

- 三友プラントサービス:授業の実施、メーカーとの調整等取組全体のサポート
- サントリー、カルビー、ヤクルト他:プラスチックに関する授業、再商品化の協力
- 日本油機:廃プラのペレット化



審査委員長コメント

分別したプラスチックゴミの行き先が見える化する取組は大いに意義のあることであり、児童のみならず家庭をも巻き込んだ取組となった点も含めて高く評価します。児童の頑張りのもとより、先生や地域事業者の尽力にも敬意を表します。この取組を効果的にPRすることにより、地域や社会の変革につなげることを期待します。

【さがみはらSDGs アワード2023審査委員特別賞】

HIYAKUKICHI 「学生の飛躍×地域の交流拠点 HIYAKUKICHI by Saltista 橋本 FC」

取組概要

- **地域の空き家を学生の手でリノベーション**し、大学生が小学生に宿題を教える「宿題塾」を開催する他、地域住民等が企画する教室やワークショップの「レンタルスペース」として活用されている。

ポイント

- リノベーションには、建築学生が設計図を描き、会計学を専攻する学生が経費などの計算を行うなど、**学んだことをアウトプットする場所として多くの学生が参画**した。
- 工務店や塗装店などから廃棄予定の資材を譲り受けることで、**予算の削減と環境への配慮**を行い、不足した資金はクラウドファンディングで調達した。
- 大学生と地域がつながるきっかけとなったことに加え、**大学生の地域への愛着の醸成につながった**。

今後の展望

- 事業の持続性が課題であるため、大学のサークルとの連携や、学生にバイト代程度のお金が入る仕組みを構築中。
- 相模原各地の空き家問題解決の一助となれるように、様々な面での**マニュアル化や属人性をなくすための施策を検討中**。

協働

- 近隣の工務店、電気店等の企業：材料の提供、資格を要する作業の提供
- 地域のサッカーチーム：宿題塾の小学生への認知拡大



審査委員長コメント

大学生が、課題となっている「空き家問題」の解決に向けて、資金調達、地域との連携を経て、自らの手でリノベーションし、地域における有効活用にまでつなげた行動力を高く評価します。この活動を一過性のものとしないう、継続性を確保する仕組みの構築を期待します。